



こども図書館で『ほんはともだち'24』を発行しました

『ほんはともだち』は、子どもたちに薦める本を選ぶ際の参考にしていただきたいという願いで、こども図書館が昭和41年度(1966年度)から隔年で発行している図書リストです。60年目を迎える今回、記念すべき30冊目を発行しました。このリストは、広島市こども図書館の前身である旧広島市児童図書館と「広島市よい本をすすめる母の会」(*)が協働で、『子どもの心を育てる良書目録'66』として発行したのが始まりです。平成3年(1991年)に『ほんはともだち』に名称を変更し、平成21年(2009年)発行の『ほんはともだち'08』からは、公募の市民委員にも加わっていただき作成するようになりました。

※児童図書館から団体貸出を受けていた市内27グループが母体となり、「本」という文化遺産を子どもたちの世代に大切に伝えていくことを目的として昭和37年(1962年)に発足。長年、広島市の子どもの読書推進活動を牽引。

- 昭和41年(1966年)4月 『子どもの心を育てる良書目録』発行(以降隔年発行)
- 昭和58年(1983年)10月 『良書目録総集版』発行
- 平成3年(1991年)1月 名称を『ほんはともだち』に改称して発行
- 平成21年(2009年)3月 『ほんはともだち'08』編集委員として初めて市民委員を公募
- 平成27年(2015年)3月 『ほんはともだち'14』掲載図書の表紙をカラー印刷に変更
- 令和7年(2025年)3月 30冊目となる『ほんはともだち'24』を発行



『ほんはともだち』を作成するにあたっては、公募による市民ボランティアの編集委員と、こども図書館の職員で構成する編集委員会を立ち上げています。まず、2年間に出版された数多くの新刊図書の中から特に子どもたちに薦めたいものをこども図書館で候補本として選定し、編集委員と意見交換しながら掲載する本を絞り込みます。掲載図書が決定したら、紹介文の執筆作業にとりかかります。限られた字数の中でいかに本の魅力を伝え、「読んでみたい」と思ってもらえる文章にするかを編集委員と職員が何度も協議を重ね推敲します。原稿の完成後印刷し、約1年半をかけて完成です。

30冊目となる『ほんはともだち'24』は、令和4年(2022年)1月から令和5年(2023年)12月までに出版された中から選び抜いた児童書132点を、幼児から中学生までの対象別に紹介しています。あわせて、原爆関係図書を42点掲載しています。広島市立図書館の窓口で市民の皆さんに差し上げるとともに、幼稚園・保育園・認定こども園、小学校・中学校、公民館等に配布しています。また、こども図書館ホームページから、その内容を見ることもできます。こども図書館では、掲載図書の展示もしています。

子どもたちが読書を楽しむためには、周囲の大人の働きかけが大きな力を持っています。子どもたちに本を手渡される方々にこのリストをご活用いただき、子どもたちが新たな本と出合い、読書の楽しみや喜びを感じることができるよう願っています。



広島市立図書館

図書館司書がおすすめるこの1冊「手紙」

児童書

『たんけんクラブ
シークレット・スリー』

ミルドレッド・マイリック
／ぶん
アーノルド・ローベル／え
小宮 由／やく
大日本図書 2017年



砂浜を歩いていたビリーとマークは、中に紙の入ったビンを見つけます。取り出してみると手紙のようでしたが、書いてある文字を読むことができません。解読してみると、その手紙には「たんけんクラブ」について書かれていることが分かりました。二人は、自分たちで作った暗号を使って返事を書くことにします。同じようにビンに入れて海に投げた手紙は、無事に相手に届くのでしょうか。

不思議な手紙から始まる、わくわくする物語です。本の中に出てくる暗号を実際に解くことができるか、ぜひ挑戦してみてください。

一般書

『すべてきみに
宛てた手紙』

長田 弘／著
晶文社 2001年



詩人の著者が、様々な新聞、雑誌や小冊子に発表したエッセーを、「手紙」としてまとめた本です。いずれも目の前にない「きみ」に宛てた言葉として書かれています。

好き嫌いといった日々の身近な事から、感銘を受けた漢詩、映画、人の痛みや死まで、多岐にわたるテーマの中でも多く取り上げられているのは、読書の楽しさです。

とりわけ絵本については、初めて読んだ時からの愛着と、その魅力が綴られています。

「文字をつかって書くことは、目の前にいない人を、じぶんにとって無くてはならぬ存在に変えてゆくこと」と言う著者から届けられた手紙を、読んでみてはいかがでしょうか。

広島文学資料室 サテライト展示 「畑耕一旧蔵 曾我廼家五郎絵はがき」

中央図書館では、広島市出身で小説家、劇評家、劇作家としても活動した畑耕一(1886~1957年)が愛蔵していた絵はがきを展示しています。絵はがきを送ったのは、喜劇役者 曾我廼家五郎(そがのや ごろう 1877~1948年)です。五郎は絵はがきを趣味とし、鮮やかな多色刷りの年賀状や興行の案内状を作っては、ひいき筋などへ届けました。「一家笑動員召集状」「家庭用笑の配給」といった、洒落を効かせた文面からは、当時の世相も伝わります。時には、絵柄に添えた絵馬やアイスクリームのウエハースを動かせるような仕掛けも凝らされました。畑が遺した絵はがきは約50枚。晩年を可部(現 安佐北区)で暮らした畑は、時々絵はがきを見返して楽しんだのかもしれない。(展示は令和7年5月29日(木)まで開催。)



編集・発行

Hiroshima City Central Library
広島市立中央図書館
(公益財団法人 広島市文化財団)
〒730-0011 広島市中区基町3番1号
<https://www.library.city.hiroshima.jp/>

代 表 0 8 2 (2 2 2) 5 5 4 2
本の照会・相談専用 0 8 2 (2 2 2) 6 4 4 0
F A X 0 8 2 (2 2 2) 5 5 4 5
(携帯電話 <https://www.library.city.hiroshima.jp/m/>)
(スマートフォン <https://www.library.city.hiroshima.jp/sp/>)